



## 角祓を頂きに再び伊勢神宮へ

高橋 司  
たかはし・つかさ

弁護士。1963年生まれ。北海道大学大学院法学研究科修了。「高橋・日浦法律事務所」代表。

平成29年12月17日、私は来年の角祓をいただくために神宮(伊勢神宮)内宮に参拝させていただいた。当駅は強風で、新千歳空港から中部国際空港に向かうフライトの到着時刻も遅れてしまった。ようやく伊勢市駅に到着したが、そのころも風が強く、少し寒さを感じた。

これまでにも神宮に参拝した際に感じた折々のことは「ラム」にも書き綴つてきただが、あつという間に1年が過ぎてしまつた。このように神宮への参拝を続けることができていることはとても有り難いことである。風の強さを感じながらも五十鈴川の流れをゆつくり見ながら宇治橋を渡つて神域に入つていく。その後、手水舎に向かつて歩き始めると、神宮衛士が何人もいて、「天皇陛下の娘さんがお通りになります」と言い、歩行者に立ち止まるように声をかけている。砂利道の上を走る黒塗りの車両が1台ゆつくりとこちらに向かってきて、後部座席で清子内親王(現姓 黒田清子様)が手を振つてくれている。そして、この車両は鳥居をくぐり宇治橋の上を渡つていったのである。何年にもわたつて神宮を参拝してきたが、宇治橋を車が

漬るのを見ることも初めてであつたし、どうして、黒田清子様が神宮に来ていているのか理解できなかつた。

興奮冷めやらぬ中、いつもどおり、手水舎にて手と口を清め、さらに「そこの先の御手洗場(五十鈴川)まで行き、そこでも手を清めた後、瀧祭神に参拝した。

以前にも「ラム」にも書き綴つたが、瀧祭神は「おとりつぎさん」と親しまれ、そこで住所と氏名を告げて願い事をすると天照大神に取り次いでくれると言われている。しかも、あまり知られていないが、瀧祭神は神宮内宮所管社30社の1社でありながら、別宮と同格の第1位の所管社なのである。ここに立ち寄らずに参道を進んでも、天照大神にとつては、どこに住んでいる誰が参拝しているのか瀧祭神から取り次がれないことにになるため、まず最初に瀧祭神を参拝するこれが大切だとも言われている。これを前提とするところ、これまで私が参拝してきた経験で以上の方々が瀧祭神に参拝していないのであるうから、取り次がれないまま御正宮に向かっていることとなる。

そして、その後、御正宮に参拝さ

れていた。このように神域に入り、御正宮への参拝を終えてゆつくりと歩いていると、神域に入る前にあれほど強く感じていた風がほとんど感じられないことに気がついた。おそらく、神宮の外はいまだ風が強いのであろうが、神域の中はとても静かであつた。

その後、四至神に向かつた。小さな白い石が数多く敷き詰められている場所である。何人もの人々が石に向かつて手を近づけている。ネット情報によれば、パワーストーンなども表現されているが、実は、この四至神は、神域の東西南北を守り、内宮を悪いものからお守りする守護神が祀られてゐる場所であり、瀧祭神や御正宮と同様に二拝二拍手一拝にて参拝する

せていただく。御正宮という場所は、個人的なお願いをする場所ではない、ただただ天照大神に感謝するのみと言われている。私が神宮に参拝するようになつたころは、たくさんお願い事を言つていたが、いまでは感謝の気持ちだけを唱え続けている。なお、個人的な願い事は御正宮の裏側に位置する別宮である荒祭宮に参拝してお願いする方々が多いそうである。

さて、このように神域に入り、御正宮への参拝を終えてゆつくりと歩いていると、神域に入る前にあれほど強く感じていた風がほとんど感じられないことに気がついた。おそらく、神宮の外はいまだ風が強いのであろうが、神域の中はとても静かであつた。

その後、四至神に向かつた。小さな白い石が数多く敷き詰められている場所である。何人もの人々が石に向かつて手を近づけている。ネット情報によれば、パワーストーンなども表現されているが、実は、この四至神は、神域の東西南北を守り、内宮を悪いものからお守りする守護神が祀られてゐる場所であり、瀧祭神や御正宮と同様に二拝二拍手一拝にて参拝する

せていただく。御正宮という場所は、個人的なお願いをする場所ではない、ただただ天照大神に感謝するのみと言われている。私が神宮に参拝するようになつたころは、たくさんお願い事を言つていたが、いまでは感謝の気持ちだけを唱え続けている。なお、個人的な願い事は御正宮の裏側に位置する別宮である荒祭宮に参拝してお願いする方々が多いそうである。

さて、このように神域に入り、御正宮への参拝を終えてゆつくりと歩いていると、神域に入る前にあれほど強く感じていた風がほとんど感じられないことに気がついた。おそらく、神宮の外はいまだ風が強いのであろうが、神域の中はとても静かであつた。

その後、四至神に向かつた。小さな白い石が数多く敷き詰められている場所である。何人もの人々が石に向かつて手を近づけている。ネット情報によれば、パワーストーンなども表現されているが、実は、この四至神は、神域の東西南北を守り、内宮を悪いものからお守りする守護神が祀られてゐる場所であり、瀧祭神や御正宮と同様に二拝二拍手一拝にて参拝する

場所なのである。

その後、残念ながら急ぎ北海道に帰らざるを得なかつたが、黒田清子様が伊勢神宮にいらっしゃつたのは、神宮祭主に就任されていたからであることが数日後にわかつた。平成25年の式典遷宮の際には、前の神宮祭主であられた池田厚子様(天皇陛下のお姉様)を補佐し、今年6月に神宮祭主を引き継がれたことがわかつた。

神宮祭主とは伊勢神宮のみに置かれた神職の役職であり、神宮の祈年祭、6月と12月の月次祭、新嘗祭の4度の大祭の際に、奉幣使として参向し、祝詞を奏上して天皇陛下の意思を祭神にお伝えすることを主たる役目とされている。そして、私が黒田清子様の姿を見たのは、この12月の月次祭が内宮では17日午前2時から取り行われていたからであることも神宮の恒例祭典の日程を見てわかつた。

神宮に参拝させていただくたびに毎年1つずつ新たなことを教えて頂いているような思いがしている。明日12月28日にでも神棚の角祓を新しい角祓にさせていただき、6月ころの、暖かい季節になつたら、再び神宮に参拝させていただきたいと思つてゐる。

そして、その後、御正宮に参拝さ

れていた。このように神域に入り、御正宮への参拝を終えてゆつくりと歩いていると、神域に入る前にあれほど強く感じていた風がほとんど感じられないことに気がついた。おそらく、神宮の外はいまだ風が強いのであろうが、神域の中はとても静かであつた。

その後、四至神に向かつた。小さな白い石が数多く敷き詰められている場所である。何人もの人々が石に向かつて手を近づけている。ネット情報によれば、パワーストーンなども表現されているが、実は、この四至神は、神域の東西南北を守り、内宮を悪いものからお守りする守護神が祀られてゐる場所であり、瀧祭神や御正宮と同様に二拝二拍手一拝にて参拝する